

海藻類分析結果<福島第一原子力発電所>

採取地点	試料名	採取日	分析項目							
			H-3(Bq/L)		H-3(Bq/kg(生))		I-129 (Bq/kg(生))	Cs-134 (Bq/kg(生))	Cs-137 (Bq/kg(生))	Cs合計 (Bq/kg(生))
			組織自由水型	有機結合型	組織自由水型	有機結合型				
1F 港湾内 (T-K1)	ほんだわら	2022/7/13	-	-	-	-	-	1.3E-01	4.4E+00	4.5E+00
1F 港湾外北側 (T-K2)	こんぶ	2022/7/14	-*	-*	-*	-*	< 1.0E-01	< 1.4E-01	5.7E-01	5.7E-01
1F 港湾外南側 (T-K3)	ほんだわら	2022/7/14	-*	-*	-*	-*	< 1.0E-01	2.2E-01	6.9E+00	7.1E+00

・核種毎の半減期：H-3(約12年)，I-129(約1570万年)，Cs-134(約2年)，Cs-137(約30年)

・不等号(<：小なり)は、検出限界値未満(ND)を表す。

・測定対象外および採取中止，ならびに試料量不足により分析中止の項目は「-」と記す。

・ $0.0E\pm 0$ とは， $0.0\times 10^{\pm 0}$ であることを意味する。

(例) $3.1E+01$ は 3.1×10^1 で31， $3.1E+00$ は 3.1×10^0 で3.1， $3.1E-01$ は 3.1×10^{-1} で0.31と読む。

・組織自由水型トリチウムとは，動植物の組織内に水の状態で存在し，水と同じように組織外へ排出されるトリチウム。

有機結合型トリチウムとは，動植物の組織内のタンパク質などに有機的に結合して組織内に取り込まれ，細胞の代謝により組織外へ排出されるトリチウム。

・分析結果の評価については「福島第一原子力発電所の状況について(日報)」を参照 <https://www.tepco.co.jp/press/report/>

※2022年8月以降手順の見直しを実施。改善された手順による再分析に必要な試料量が残っていないため分析中止。

海藻類分析結果<福島第一原子力発電所>

採取地点	試料名	採取日	分析項目							
			H-3(Bq/L)		H-3(Bq/kg(生))		I-129 (Bq/kg(生))	Cs-134 (Bq/kg(生))	Cs-137 (Bq/kg(生))	Cs合計 (Bq/kg(生))
			組織自由水型	有機結合型	組織自由水型	有機結合型				
1F 港湾内 (T-K1)	ほんだわら	2022/8/18	-	-	-	-	-	< 1.7E-01	2.4E+00	2.4E+00
1F 港湾外北側 (T-K2)	こんぶ	2022/8/19	_※1	_※1	_※1	_※1	< 1.0E-01	< 1.4E-01	6.5E-01	6.5E-01
1F 港湾外南側 (T-K3)	_※2	_※2	_※2	_※2	_※2	_※2	_※2	_※2	_※2	_※2

・核種毎の半減期：H-3(約12年)，I-129(約1570万年)，Cs-134(約2年)，Cs-137(約30年)

・不等号(<：小なり)は、検出限界値未満(ND)を表す。

・測定対象外および採取中止，ならびに試料量不足により分析中止の項目は「-」と記す。

・ $0.0E\pm 0$ とは、 $0.0\times 10^{\pm 0}$ であることを意味する。

(例) $3.1E+01$ は 3.1×10^1 で31， $3.1E+00$ は 3.1×10^0 で3.1， $3.1E-01$ は 3.1×10^{-1} で0.31と読む。

・組織自由水型トリチウムとは、動植物の組織内に水の状態で存在し、水と同じように組織外へ排出されるトリチウム。

有機結合型トリチウムとは、動植物の組織内のタンパク質などに有機的に結合して組織内に取り込まれ、細胞の代謝により組織外へ排出されるトリチウム。

・分析結果の評価については「福島第一原子力発電所の状況について(日報)」を参照 <https://www.tepco.co.jp/press/report/>

※1 2022年8月以降手順の見直しを実施。改善された手順による再分析に必要な試料量が残っていないため分析中止。

※2 2022年8月19日は海藻が無く採取出来ず。